

# 債権管理の基本的な取組方針

回収すべきものはしっかり回収、見込みのないものは適切に不良債権処理

メリハリをつけて効率的な回収を実施

## 1 債権管理の主な課題

### ◆ 税外債権の収入未済額

債権管理条例が施行した平成26年度以降、税外債権の収入未済額は減少傾向であるが、歳入確保、県民負担の公平性確保を図るためには、債権管理の取組を推進することが必要

### ◆ 債権管理の体制

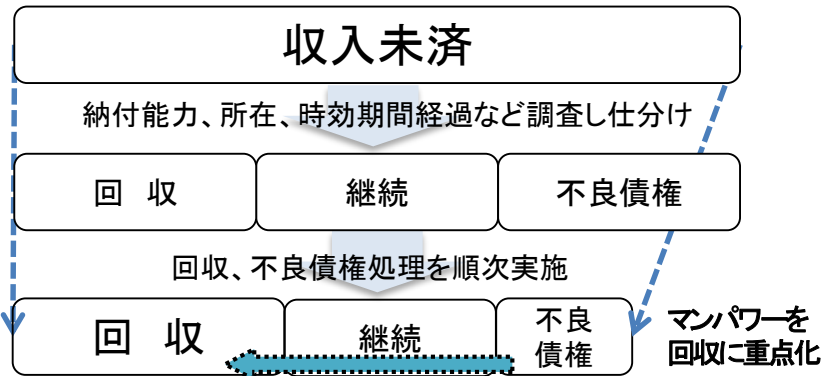
- 債権管理以外の業務増大等により債権管理に従事できる時間が短い  
⇒ 効率的に債権管理を行うことが必要  
日頃から債権管理の意識付けが重要
- 人事異動等により職員のノウハウが不足・専門職員の不在  
⇒ 研修を通じた人材育成、マニュアルの充実  
困難事案はすぐに弁護士相談を活用し、スピード感ある対応を行う

## 2 債権管理のポイント

- 県民負担の公平性確保の観点から厳正な姿勢で回収努力をする
- 債権管理には「事務手続き」・「人員コスト」を伴うが、全ての債権が実現(回収)できるものではない

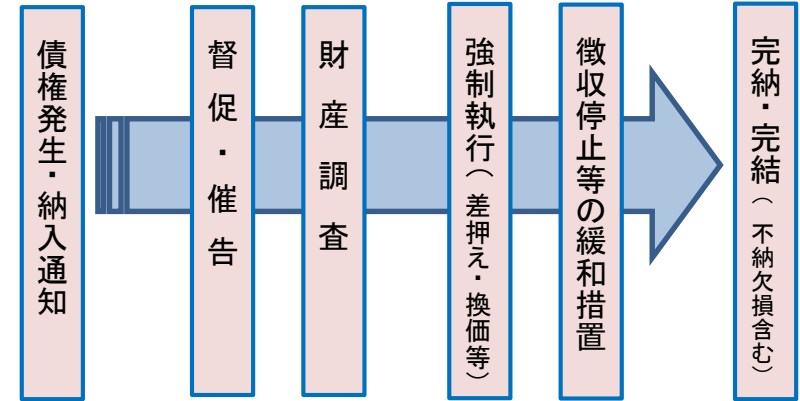
⇒ **債権管理のポイントは債権回収と不良債権処理の2本柱**

- 資力のある債務者には法的措置・滞納処分を含め債権回収
- 回収見込みのない債権は条例等に基づき不良債権処理を加速



## 3 標準的な事務フロー

### ◆ 滞納整理の流れ(概略版・イメージ)



### 1 「まずは、滞納を未然に防ぐ」

- 債務者に「納付すべき金額」を用立てていただくための時間
- 文書等で告知をし、先に金銭工面のための準備を進めていただく
- キャッシュレス決済導入など、債務者の利便性向上も検討

### 2 「効率的かつ集中的に催告・調査」

- 納期限までに納付されない場合は、催告及び財産調査を実施
- 毎年度、多くの債権が発生する場合は、催告及び財産調査を集中的に行う担当を設けることも有効

### 3 「厳正・的確な強制執行」

- 催告効果が薄い事案は、換価しやすい預貯金等の債権から差押
- 自力執行権のない債権については、支払い督促又は訴訟により債権名義の取得が必要

### 4 「債務者の状況を踏まえた適切な対応」

- 徴収できない債権をいつまでも抱えているのは非効率
- 本来注力すべき債権の回収に手が回らないといったリスクを生じさせないためにも、徴収停止・滞納処分の執行停止等の措置を検討